

# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	本渡学校給食センター	階数	地上2F		
建設地	熊本県天草市東町7番40の一部、7	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	48人		
気候区分	7地域	年間使用時間	1,600時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年12月17日		
敷地面積	4,746 m <sup>2</sup>	作成者	福島正継		
建築面積	2,064 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月17日		
延床面積	2,510 m <sup>2</sup>	確認者	河野 豊		

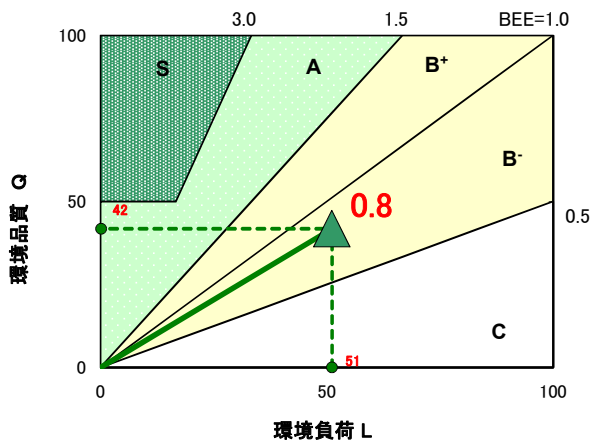
## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.8

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



### 排出率

96%

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



### 評価点

68

### 評価点

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

60.5

65.0

75.0

79.5

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★


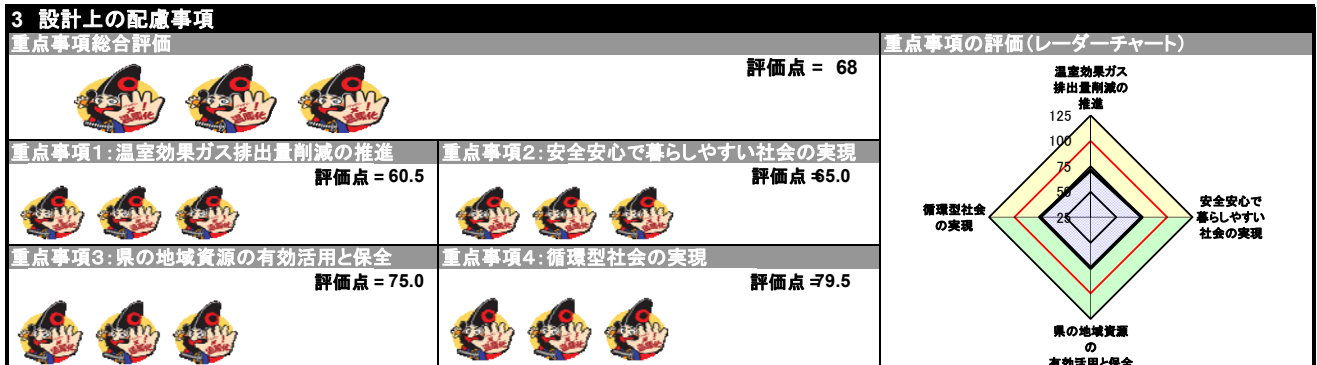
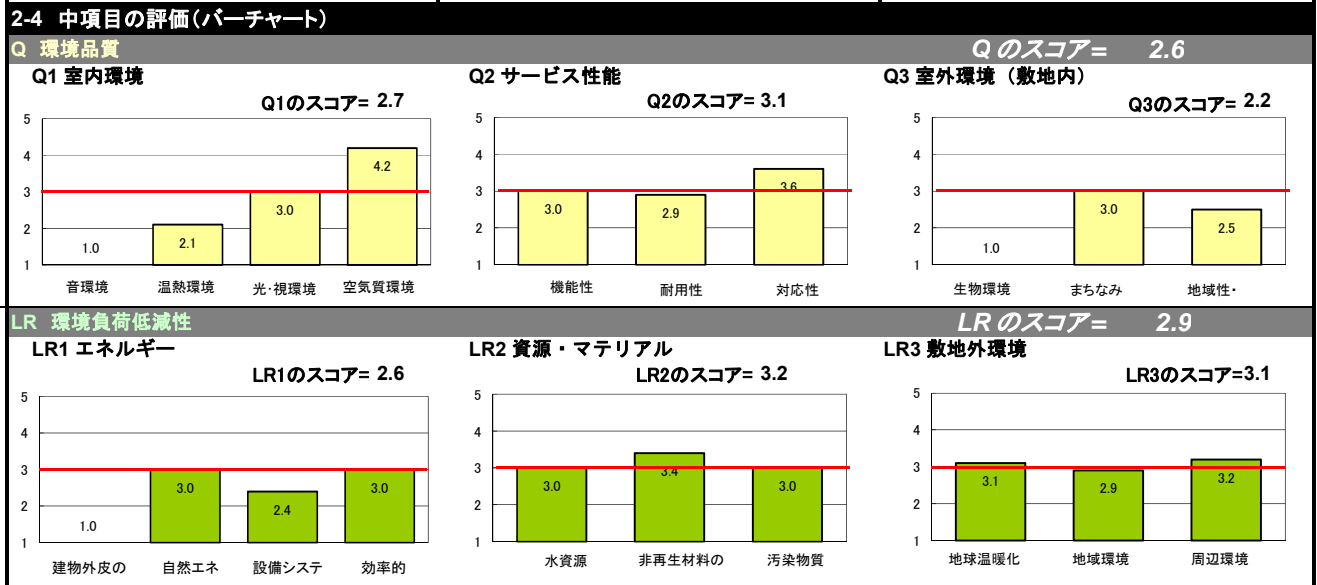
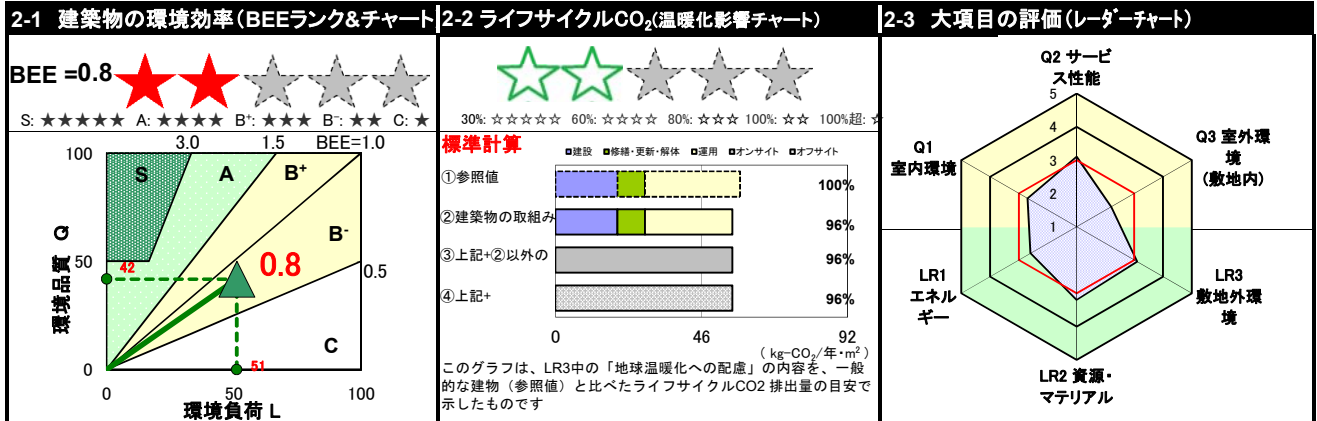
※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本渡学校給食センター	階数	地上2F
建設地	熊本県天草市東町7番40の一部、7	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	48人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,600時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年12月17日
敷地面積	4,746㎡	作成者	福島正継
建築面積	2,064㎡	確認日	2020年12月17日
延床面積	2,510㎡	確認者	河野 豊

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

給食センター用途である為、特に清潔性を重視した設計とした。

### Q1 室内環境

調理する給食への外部からの異物混入を防ぐ為、開口は必要最小限とし、調理の作業環境、及び給食調理で推奨される室内温度を保持できるように空調機、及び外調機を設置した。使用建材は全てF☆☆☆☆とした。

### Q2 サービス性能

天井内の設備各種ダクトの設置・更新がしやすいように屋根を外断熱仕様とし天井内のグラスウール断熱材敷き込みを省略した。

厨房機器の将来的な更新にも対応できるように搬出入口を計画した。

### Q3 室外環境（敷地内）

外壁材(ALC+塗装)の彩度を落した色彩計画とし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図った。

### LR1 エネルギー

設備システムの高効率化を行い、運用管理体制を整備した。

### LR2 資源・マテリアル

基礎や底板下部の砕石地業にリサイクル材（再生クラッシュラン）を使用する計画とした。

### LR3 敷地外環境

既存道路から、新たに敷地進入用の道路をつくり、給食搬入車往来による道路渋滞が起こらないような計画とした。

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 本渡学校給食センター

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		68
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				60.5	0.40	24.20
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**本渡学校給食センター**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>配慮項目</b>		<b>環境配慮設計の概要記入欄</b>						
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>			<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>1.0</b>	0.15	-	-	<b>1.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音				<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				<b>1.0</b>	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能				<b>1.0</b>	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.1</b>	0.35	-	-	<b>2.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.2</b>	0.50	-	-	
1 室温				<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2 外皮性能		窓 SC:0.50、U:2.67、外壁:1.364		<b>4.0</b>	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		【事務室】6.3%		<b>5.0</b>	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御				<b>2.0</b>	1.00	-	-	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.2</b>	0.25	-	-	<b>4.2</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の採用、化学物質の濃度測定		<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 自然換気性能		0.083>0.067(1/15以上)		<b>5.0</b>	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33	-	-	
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙、喫煙室なし		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.6</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応				<b>2.0</b>	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室天井高:2.7m、窓有り		<b>4.0</b>	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上		<b>4.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途2種以上にCを使用		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高:4.655m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.08	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	PF管を採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	PF管を採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	-	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.92	<b>2.4</b>	0.63	-	-	<b>2.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
2.1	材料使用量の削減	ALC	3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能(躯体+軽鉄+仕上) ・再生できるユニット部材 ・構造部材が容易に分解、再利用できる	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率:96%	<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、屋外広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	